

# 更埴市史 第三卷 近・現代編 目次

発刊のことば

凡 例

## 概 観

### 第一章 明治維新

#### 第一節 幕藩政治の解体

一 戊辰戦争

嚮導隊の宣撫 尾州藩取締所中之条役所の

設置 松代藩の参戦と村むら

二 伊那県から中野県へ

伊那県中之条局の設置と村むら 賈金流入

と生活の困窮 中野県の創設と中之条局廢

止反対一揆

三 松代騒動と長野県

松代騒動 中野・松代県から長野県へ

#### 第二節 四民平等

一 区制の開始と村

戸籍づくりと戸籍区の設置 大区小区の設

置と村 屋代村への改称と八幡村の成立

二 封建性の排除

神仏分離と武水別神社 大教宣布と更埴市

域の村むら 改名・苗字と新しい身分

職業の自由と諸営業

三 徴兵制の施行と警察分署の設置

徴兵制と壮丁検査 西南戦争と徴兵令の改

正 稲荷山・屋代分署の設置

#### 第三節 地租改正

一 年貢から地租へ

壬申地券の下付 地租改正事業の実施

耕地・税額の増減

#### 第四節 文明開化

一 近代教育をめざして

近代的小学校の創立 弟子から生徒へ

学校運営の実状 私塾・家塾禁止のふれ

二 旧習の打破

太陽暦の採用等 開化の諸相

### 第二章 自由民権

#### 第一節 民権の伸長

一 県民会から県会へ

県民会の成立 初期県会の推移

二 議会開設への道

国会開設運動と筈匡社 民権思潮の興隆

大同団結運動 殖科・更級倶楽部の結成

第二節 郡と町村……………一九

一 よみがえった郡と町村……………一九

埴科・更級郡役所の設置 戸長役場と町村

会 協議費から町村費へ 分村運動の波

紋

二 連合戸長役場の出現……………二〇

改正町村会規則 連合町村制への移行

第三節 明治初期の産業……………二五

一 戸数・人口と耕地……………二五

戸数・人口と家族数 町村の土地利用状況

水利慣行の変化

二 農業の変容……………二六

生産力の向上 作付けの変化 桑苗の販

売と養蚕業 兼業農家の増加 農具と栽

培技術 勸農指導とその対応 共進会・

博覧会……………二六

三 在来工業と製糸業……………二六

在来工業の特色 製糸業の勃興 更殖特

産の杏干……………二六

四 商人の活動と銀行の創業……………二六

商品とその販路 糸商人と蚕種商 銀行

の創立とその推移 稲荷山銀行の創立

五 運送業の成立……………二七

陸運会社と中牛馬会社 運送会社間の業務

第四節 社会生活の変化……………三三

一 明治前期の生活……………三三

「町村誌」にみる富者・貧者 小作農の増

加……………三三

二 すすむ生活の近代化……………三三

「金銀出入帳」に見る生活の変化 変わら

ない旧来の慣習……………三三

三 社会生活の変化……………三三

相互扶助としての講 八幡村常平倉の設立

新しい無尽の設立……………三三

四 武水別神社の県社昇格運動……………三四

県社昇格願いの提出 武水別神社県社とな

第五節 教育のうねり……………三四

一 小学校教育の根つき……………三四

教育令とその改正 くるくる変わった学校

名 教則と教員 教場の動き 下見板

張り校舎の出現……………三四

二 幅の広い教育熱……………三五

夜学の盛行 粟佐夜学校

第三章 町村自治の展開……………三三

第一節 町村合併……………三三

一 適正規模町村の要請……………三三

町村制の公布と県の対応 合併諮問案と各

……………三三

町村の反応 再諮問案の提示

二 自治体町村の発足……………三二

二町八村の自治体 等級選挙の実施

町村長・助役の登場

第二節 国県郡の政治と町村自治……………三七

一 国・県・郡の政治とのかかわり……………三七

郡制とのかかわり 政党運動と選挙 近

代的官庁の出現

二 町村自治の定着過程……………三〇

財源の確保 区制の実施 条例などの制

定 町村政のさまざまな課題 神社合祀

と区有財産の統一

第三節 産業・経済……………三〇

一 産業の発達……………三〇

商品的農業への兆し 稲作と高い土地生産

性 農業技術の改良・普及 桑園と養蚕

の発展 小作人の増加と農家の収支状況

蚕種製造の先進地 器械製糸業の発達

二 鉄道開通と商店街の変化……………三六

信越線（直江津線）の開通 屋代駅の開設

乗合馬車出現 屋代駅の開業と道路の

建設 駅前集落の発生と進展 屋代駅の

利用増加 篠ノ井線の開通

三 各町村の経済的動向……………三五

屋代中心の川東地区 稲荷山中心の川西地

区 八幡門前町

四 山野の利用……………三三

御林・入会地の官有地編入 稲荷山・桑原

の共有山 森村外三ヶ町村共有山 峯山

の共同利用 県有林設置と県有地の分譲

八幡・倉科村有林 東部救済会の活躍

小島・桜堂の大穴山借用

第四節 日清・日露戦争と社会問題……………三三

一 日清・日露戦争と更埴地方……………三三

日清・日露戦争と「銃後」活動 日露戦争

と町村財政

二 「大逆」事件と屋代町……………三九

社会主義への関心の高まり 『高原文学』

の発行 「大逆」事件と新村兄弟 「大

逆」事件判決と屋代町

三 衛生・防災対策の充実……………三五

赤痢・腸チフスの流行と対策 千曲川等の

水害被害 千曲川治水対策はじまる 消

防組織の成立

第五節 教育と文化活動……………三三

一 義務教育の確立……………三三

一郡一校の高等小学校 就学率と義務教育

の延長 教育費の上昇 校舍新築の進展

職員組織の近代化 教育会と職員会

二 教育活動の整備・発展……………三六

学科から教科目へ 祝祭日儀式・卒業式など 教室外活動はじまる 教育機会均等の広がり

三 文化活動の普及……………二六六

青壮年の組織活動 婦人会の創設 雅楽会・幻灯会等の登場

## 第四章 大正デモクラシー……………二五三

第一節 大正デモクラシーと町村政治……………二五三

一 活発な政党活動……………二五三

第一次護憲運動 政友と非政友の争い

普通選挙の実現 貴族院議員互選者の急増

二 郡会と郡役所の行政……………二六〇

更級郡庁移転問題 郡政の推移 郡制・

郡会の廃止 郡役所の廃止

三 地域町村の動き……………二七〇

町村制の改正 勸業土木事業等に本腰

町村財政の膨張 町村財政の具体例

四 屋代警察署の廃止と復活……………二六六

屋代警察署の廃止 激しかった反対運動

反対運動の決着

第二節 第一次世界大戦と産業の動き……………二五九

一 農蚕業の動向と畜産……………二五九

稲作と産米改良 養蚕業の発展 殖生地

区の桑苗栽培 畜産業のはしり 産業組

合の進展 農会の活動 農家のくらしと勤儉の励行

二 林産業の概況……………二五三

森林の保持と植林 林産物品評会

三 各種工業のおこり……………二五五

商業から工業へと変わる稲荷山町 殖生地

区の織維・木工・食品工業

四 稲荷山町を中心にした商業……………二五九

繁栄する稲荷山商店街

五 屋代駅を中心とした交通……………二五三

乗合自動車の開業と諸車の変遷 河東線の開通 鉄道開通後の住民生活

第三節 社会問題と社会運動の展開……………二五三

一 シベリア出兵と米騒動……………二五三

シベリア出兵と米騒動 町村での米騒動対策

二 北信社会思想研究会・政治研究会の結成……………二五五

北信社会思想研究会の結成 政治研究会北

信支部の結成

三 小作組合の結成と小作争議……………二五九

小作組合結成のうきき 森村・殖生村等の小作争議

四 信濃同仁会と水平社……………二六一

雨宮県村同仁会の結成 雨宮県村水平社の結成

結成

第四節 生活の近代化……………三三五

一 大正期の人口動態……………三三五

初めての国勢調査 商都稲荷山町郡都屋代

町

二 電灯・自転車の普及と電話・ラジオの導入……………三三〇

ランプから電灯へ 電灯導入への努力

ハイカラは自転車から 電話交換業務の開

始

三 稲荷山上水道の設置……………三三七

水道布設への取り組み 水道布設の認可

稲荷山水道の給水開始 稲荷山町の下水

道敷設計画

四 衣・食・住の変化……………三三三

大福帳にみる生活の変化 変わらない家

屋

五 伝染病の予防……………三三六

清潔法と春秋二回の清潔検査 衛生組合に

よる予防対策

六 千曲川の氾濫と治水工事……………三三七

千曲川治水工事の請願 千曲川改修工事の

開始と問題 関東大震災と救援活動

第五節 自由教育と大衆文化……………三三九

一 定型を破った小学校教育……………三三九

お伽嘶会・児童文庫等 主体性自覚の主張

宮入源之助と訓練要目 松木三郎らの

白樺教育 学芸会・音楽会 連合運動会

や野球・庭球の盛況 とりどりの教育

活動 学校と家庭の連絡

二 拡大した教育機関……………三三〇

埴科中学校の開校 女子中等教育の進展

幼稚園の開設

三 教育活動の広まり……………三三三

通俗教育から社会教育へ 郡連合青年会の

結成 女子青年団の登場

四 演芸・祭り・スポーツ……………三三六

演芸の大衆化と活動写真 賑わう祭り等

スポーツ底辺の拡大

第五章 昭和恐慌と戦時下の生活……………三四五

第一節 世界恐慌のあらし……………三四五

一 まゆ値の暴落と農村の窮乏……………三四五

大霜害と養蚕 農産物価格の暴落 農村

の窮乏と農家のくらし

二 桑園から果樹園芸作物への転換……………三四三

桑園からりんご園へ 蔬菜・花卉作物への

転換 米づくりの奨励

三 不況と町村の行財政……………三四四

財政の窮迫 町村税の滞納

四 金融の混乱……………三四三

信濃銀行の破産と地元産業組合 八十二銀

行の設立 金融恐慌と産業組合

第二節 經濟更生から統制經濟へ…………… 四六

一 失業救済事業…………… 四六

千曲橋の架橋と粟佐橋の災害復旧 町村道

稲荷山麻績線の改修 時局匡救事業と農村

振興事業

二 農村經濟更生運動…………… 四七

産業組合拡充の動き 經濟改善委員会の設

立 負債整理と農業の振興 農村經濟更

生運動と満洲移民

三 統制經濟…………… 四九

農会の権限拡充と産業組合 食糧統制と農

村の状況 商工業の状況と統制の強化

四 戦時下の町村行政…………… 五一

国民精神総動員の實施 国民精神総動員と

住民の生活 戦時体制の強化と部落常会

第三節 社会運動の激化と右傾化…………… 四九

一 無産政党の組織化と県議会議員選挙…………… 四九

労働党北信支部の結成 普選下初の県議会

議員選挙

二 農民運動など社会運動の發展…………… 五一

日本農民組合県連結成と更埴地方 農民運

動の發展と五加爭議支援 婦選運動などの

とりくみ

三 治安維持法事件と更埴地方…………… 五二

三・一五事件と小林杜人 二・四事件と更

埴地方 社会運動の衰退と若林の引退声明

第四節 戦時中の生活…………… 五二

一 戦時中の兵役…………… 五二

厳しい徴兵検査 壮丁連名簿 臨戦態勢

下の在郷軍人名簿 アジア全域への出征

敗戦直前の戦歿者数 家族を思う戦地の

便り

二 銃後の生活…………… 五三

町村挙げての公葬 困窮する遺族への援護

生活様式の規制 衣・食・住の耐乏生

活 疎開者の不安な生活 部落常会の活

動 強いられた貯蓄

三 戦時体制の強化…………… 五三

戦争への協力団体 国民勤労報国隊の動員

四 「松代大本営」建設工事…………… 五三

勤労働員の実態 「マ(三・二三)工事」

と国民義勇隊の送出

五 戦時下の火災…………… 五三

八幡村の火事 森村の大火 生萱村の火

災

第五節 試練のなかの教育…………… 五三

一 昭和不況下の教育…………… 五三

教育予算の削減 郷土教育の實踐 神社

崇拜の強調

二 国家主義教育の歩み…………… 五三

盛んになる時局講演会 青年学校の発足

野球・庭球から武道へ 鍛錬主義の教育

学校施設の拡充 みそ汁給食の開始

勤勞奉仕と学徒動員 滿蒙開拓青少年義勇

軍の編成 更埴地域の義勇軍送出

三 中等教育の推移…………… 五〇

地域に密着した教育 入学者選抜制度の改

革 中等学校令下の学校

四 国民学校の教育…………… 五〇

国民学校の発足 青少年団の結成 大詔

奉戴日と錬成体育大会 疎開児童の受け入

れ 敗戦直前の学校

## 第六章 戦後の新しい社会…………… 五七

第一節 占領下の政治…………… 五七

一 敗戦直後の町村の動き…………… 五七

戦時体制の解消 占領下の治安維持と武器

の引渡し 海外引揚げ・復員の状況と対策

罹災者・疎開者の生活 食糧危機への

対応 絶対量不足の生活物資の配給 消

防団の発足と装備の充実 河川の災害と消

防団の出勤

二 新しい町村の発足…………… 五五

町村行政の概要と民主化への動き 町内会

・部落会の廃止 町村長・議会議員の選挙

と町村議会 国家地方警察と自治体警察

諸改革に伴う歳入出の増加

三 復興の動き…………… 五二

住民生活の復興と変化 復興期の社会福祉

行政 復興期の国政・地方選挙の動向

地方税制の改革と町村財政

第二節 新しい生活…………… 五三

一 戦後の青年団活動…………… 五三

敗戦直後の青年団 連合青年団の結成

各町村の青年団活動 更埴市連合青年団の

結成

二 戦後の婦人会活動…………… 五八

新しい婦人会の誕生 更埴地域の婦人会活

動 連合婦人会の活動 更埴市連合婦人

会 盛りあがる婦人会活動 婦人会と生

活改善 更埴結婚改善研究大会 婦人会

の課題

三 保健・衛生…………… 五五

中埴伝染病院とその運営 診療担当医の苦

心 更埴伝染病院の設立 戦後の病氣と

医療施設 松原火葬場

四 環境衛生…………… 五二

寄生虫の駆除 八幡村の環境衛生改善

八幡村上水道布設の経過 大田原上水道

五 社会福祉…………… 六八

生活困窮者の救済 民生委員と社会福祉

身障者と戦災者の救済 老人養護施設  
「はにしな寮」 国民健康保険事業の推移

### 第三節 経済の混乱と復興…………… 六六

一 混乱する経済…………… 六六  
生産力の低下 物価の騰貴とくらし

二 農業の復興と近代化への道…………… 六〇

敗戦直後の農業 入植・開拓状況 農地  
改革の断行 農業協同組合の発足と活動

農業改良普及制度 埴科用水の改修と土  
地改良 営農の近代化 りんごと花卉の  
栽培

三 戦後の商工業と復興への兆し…………… 六五

工業の復興 商店の増加

四 交通の発展…………… 六三

屋代駅とバス交通の隆盛 国道一八号線沿  
線の発展

### 第四節 教育の再出発…………… 六四

一 新教育のいぶき…………… 六四

戦時色の払拭 激動の二十一年度

二 六三三制の発足…………… 六六

新制小学校の発足 立ち消えの五日制

幼稚園・保育所等 新制中学校の発足

アチーブの実施 新制高等学校の発足

P T Aの結成と学校給食 教育委員会の設  
置

三 六三三制の進展…………… 六〇

教育課程の改訂 稲荷山養護学校の開校

高校進学率の上昇 埴生高校のあゆみ

四 公民館活動の展開…………… 六五

公民館の登場 教養の普及と向上事業 各

種の集會行事 根づいた公民館活動

## 第七章 更埴市の発展…………… 七〇

第一節 更埴市の誕生…………… 七〇

一 新しい町の成立…………… 七〇

埴生町の成立 新埴生町の誕生 中区の

編入と野高場の分町 新屋代町の成立

倉科村の編入合併 新稲荷山町の成立

二 更埴中部市制研究協議会の結成…………… 七〇

新市誕生への期待 更埴中部市制研究協議

会の成立へ 塩崎村の市制不参加

三 合併議決とその後の混乱…………… 七〇

更埴市制施行議案の議決 市制不参加の紛

争 長びいた市制の認可 稲荷山町の市

制反対運動

四 市庁舎の建設とその後の市政…………… 七〇

市庁舎の位置をめぐる問題 特色ある市庁

舎の建設 市庁舎の完成とその後の市政

市歌・市民憲章などの制定 新市の機構  
と職員 市庁舎の完成と市機構の改革



五 市長・市議会議員の選出……………七七

市長選挙の推移 市議会議員の選挙 県  
議会議員の選挙

六 更埴市の人口動態……………七三三  
市の人口と人口構成

第二節 高度経済成長の波……………七四六

一 農業の変貌……………七四六

農業就業者の変動 兼業農家の増大 農  
業の省力化 商業的農業への展開 米の  
生産調整

二 農業協同組合の合併……………七五七

更埴市西部農業協同組合の発足 更埴中部  
農業協同組合の発足

三 農業構造改善事業の進展……………七六〇

農業基盤整備事業 営農近代化施設の充実  
農業振興地域の指定

四 工場誘致と企業の発展……………七六六

工場誘致条例と工場の進出 工業振興条例  
更埴市の工業の成立と発展 更埴市中  
業の現況

五 商業の近代化……………七七四

商店街の変容と大型店の進出 商工会から  
商工会議所へ

六 高速交通網対策と交通状況……………七七八

中央自動車道長野線の路線決定 中央道長

野線の設計協議と工事の着工 上信越自動  
車道の路線決定 北陸新幹線計画 新国  
道バイパスの促進運動 追われる鉄道・バ  
ス

七 財産区から市有林へ……………七八一

財産区の成立 市有林等

第三節 公共事業の発展……………七四四

一 都市開発事業……………七四四

開発公社の設立 長期総合計画の樹立  
県営広域水道と市営水道 県営ガス事業

二 観光開発……………八〇一

千曲高原大池 榊平の別荘 観光客の増  
加

三 都市基盤整備事業……………八〇四

都市計画街路と土地利用計画 新用途別地  
域の設定 都市下水道事業 屋代駅前通  
りの再開発

第四節 社会環境の変化と市民生活……………八二二

一 社会生活の変化……………八二二

家族構成の変化 スポーツの振興とレジャ  
ー生活 テレビの普及 生活改善運動の  
推進 同和対策と同和教育 更埴市婦人  
団体連絡協議会

二 保健・衛生……………八三三

伝染病の発生と予防対策 予防接種の推移

検診および健康診断 精神衛生事業

健康づくり推進事業 栄養改善事業の推進

医療施設と医療従事者 保健所の任務

保健婦・栄養士の活動 環境衛生と公

害対策(ごみ処理・し尿対策・公害対策)

三 社会福祉と社会保障……………八五

生活保護 障害者福祉 児童福祉 母

子および寡婦福祉 老人福祉と老人クラブ

福祉団体の活動(社会福祉協議会・赤十

字奉仕団・シルバー人材センター) 国民

健康保険 国民年金

四 災害と消防……………八六

三〇年間の火災の発生 桑原地区林野火災

水害と水防 沢山川改修工事 松代

群発地震 救急車の出動状況 激増する

交通事故 消防の組織と活動

第五節 今日の教育と文化……………九三

一 小中学校の統合と校舎改築……………九三

西中学校の建設 森・倉科・雨宮三小学校

の統合と東小中学校の建設 稲荷山・桑原小

学校の統合と治田小学校開校 屋代・埴

生・八幡小学校の全面改築

二 保育園の充実……………九〇

屋代・森・倉科・雨宮・埴生保育園の新設

八幡・稲荷山・桑原・杭瀬下保育園の新設

学童保育・児童館の建設

三 文化財の指定と保護……………九四

文化財保護への取り組み 更埴市文化財保

護条例の制定 森将軍塚古墳の調査と復原

事業 市史の編纂事業 更埴市教育資料

館の開館

四 公民館活動の発展……………九三

市制施行と公民館 特色ある分館活動

更埴市文化祭 青少年の健全育成への取り

組み

五 新しい文化の創造……………九三

あんず祭と観月祭 新しい市民のまつりど

んしゃんまつり 更埴市芸術文化協会の創

立

六 更埴市の課題……………九〇

みんなで築くしなの里

付録 更埴市の町村合併系図

あとがき

監修・執筆者、刊行会・事務局、市史編纂委員会名簿